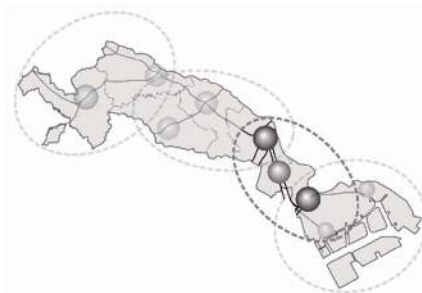


Ⅲ 川崎・小杉駅周辺エリア

J R南武線沿線等の地域で、幸区、中原区を含む範囲



1 川崎・小杉駅周辺エリアの特徴

(1) 市民の行動

- ・エリア内に川崎駅・小杉駅周辺地区の2つの広域拠点をもつ、住民の活動の選択の幅が大きく、買回り品の購入や娯楽・レジャー、文化・スポーツ活動等の行動は、エリア内の移動が大半を占めています。
- ・通勤においては、都心方面や横浜方面へと市民の行動圏が広がっています。

(2) エリア内の交通特性と拠点地区

①交通特性

ア 鉄道ネットワーク

- ・J R南武線が、川崎駅から多摩地域方面へと伸び、市内の南部地域と北部地域をつないでおり、それと接続するように市域を放射方向に貫き、都心方面、横浜方面と川崎駅、武蔵小杉駅をつなぐJ R東海道線、東急東横線等によって広域的なネットワークが形成されています。

イ バス等の交通ネットワーク

- ・川崎駅・武蔵小杉駅を中心に、鉄道沿線から離れた住宅地に接続する路線バスのネットワークが形成されています。

②拠点地区

ア 広域拠点：川崎駅周辺地区、小杉駅周辺地区

- ・川崎駅周辺地区では、J R川崎駅西口を中心とした老朽住宅団地や大規模な工場跡地等の土地利用転換による、中枢業務機能を有する都市機能や広域的な商業施設の集積が進められ、広域的な集客機能の強化が進められています。
- ・小杉駅周辺地区では、駅前広場や道路等の整備にあわせて、商業・業務・医療・都市型住宅等の都市機能の集積が進められています。

イ 地域生活拠点：新川崎・鹿島田駅周辺地区

- ・大規模な操車場跡地の活用により、「新川崎・創造のもり」を核とした、ものづくり・研究開発機能の集積が進められています。

(3) J R南武線等

①鉄道沿線の主な拠点地区

- ・J R南武線によって、広域拠点である川崎駅周辺地区と小杉駅周辺地区とがつながっています。

②鉄道沿線の人口動態

- ・J R南武線沿線では、川崎駅・小杉駅周辺の広域拠点を中心に人口が増加していますが、将来的には、一部の地域で人口減少が見込まれています。
- ・エリア内のJ R南武線沿線では、高齢者の増加が見込まれています。

③鉄道沿線の動向

- ・JR東日本は、JR南武線を「東京メグループ」の一部と位置づけ、他の鉄道路線との結節点を多く持つ東京圏の環状路線群の一つとして、輸送サービスの改善を図るとともに、川崎市と包括連携協定を結び、沿線のイメージアップに向けた取組を進めています。
- ・JR南武線の尻手駅から武蔵小杉駅間において連続立体交差事業による、交通の円滑化や歩行者、自転車等の安全・安心な通行環境の形成を図っています。

(4) 土地利用

- ・本エリアでは、住宅系土地利用が多く、住宅地では、震災後、臨海部の工業都市としての発展に伴い、居住の受け皿として急速に市街化が進展したため、狭あい道路や木造住宅が多い密集市街地が存在する一方で、鉄道沿線の操車場跡地や工場跡地等の低未利用地の土地利用転換により市街地の更新が進む地域も存在します。
- ・鉄道沿線には、地域住民の活動・交流の場となる商店街等があり、また居住地としての需要の高さから住宅系土地利用が多くなっています。
- ・JR南武線沿線は、「新川崎・創造のもり」をはじめとした研究開発機関や高度なものづくり産業が集積し、世界的企業などが立地する就業地となっており、夢見ヶ崎公園等の自然的資源や歴史・文化的資源が立地しています。
- ・自然的土地利用の割合が他の生活行動圏に比べ、低い傾向にあり、多摩川の河川敷や夢見ヶ崎公園等のまとまりある緑は、地域の貴重な自然的資源となっています。
- ・本エリアは、多摩川と横浜市に挟まれた地勢から市域の幅が狭く、駅勢圏が多くを占めています。更に平坦地が広がっているため、駅へのアクセスは、徒歩や自転車の割合が多い傾向となっています。

2 川崎・小杉駅周辺エリアの課題**①拠点等の整備とその効果の効果的・効率的な波及**

- ・本エリアは、川崎駅周辺と小杉駅周辺の2つの広域拠点とそれらをつなぐ地域生活拠点である新川崎・鹿島田駅周辺地区を有しており、これら拠点における都市機能の集積効果や整備効果を高めるとともに、その効果を効果的・効率的にエリア全体に波及させていくため、拠点整備と連携した鉄道沿線の取組が必要となります。

②交通環境の利便性の向上

- ・鉄道によって地域が分断されていることから、住民の快適性・利便性を高める交通環境の形成が必要となります。

③地域資源の活用

- ・地域資源の活用による多様な交流の創出を図るため、多摩川、夢見ヶ崎公園等の自然的資源、JR南武線沿線に立地する企業等を本エリアの特徴的な地域資源として、まちづくりに活かしていくことが必要となります。

④市街地環境の改善

- ・狭あい道路や木造住宅が多い密集市街地において、市街地環境の改善が必要となります。また、工場等の土地利用転換等があった際には適切な誘導等のまちづくりが必要となります。

3 川崎・小杉駅周辺エリアの都市構造

1 鉄道		J R南武線、J R南武支線、J R東海道線、 J R京浜東北線、J R横須賀線 東急東横線、東急目黒線
2 地域生活ゾーンの形成		概ね幸区域及びび中原区域
3 拠点地区	①広域拠点	川崎駅周辺地区、小杉駅周辺地区
	②地域生活拠点	新川崎・鹿島田駅周辺地区
4 主な施設等	①身近な駅 (拠点地区以外)	J R南武線：尻手駅、平間駅、向河原駅 東急東横線：新丸子駅、元住吉駅
	②病院 (一般病床 300 床以上)	川崎幸病院、日本医科大学武蔵小杉病院、 関東労災病院
	③産業・研究開発	新川崎・創造のもり
	④公園緑地 (市民健康の森含む)	多摩川緑地、夢見ヶ崎公園、御幸公園、中原平和公園
	⑤その他	市営住宅：幸区 19か所(小倉第1、河原町、南加瀬第2 等) 中原区 7か所(宮内 等) 幸市民館、中原市民館、平和館

第1部

改定の趣旨等

第2部

まちの現状・課題

第3部

都市づくりの基本理念

第4部

分野別の基本方針

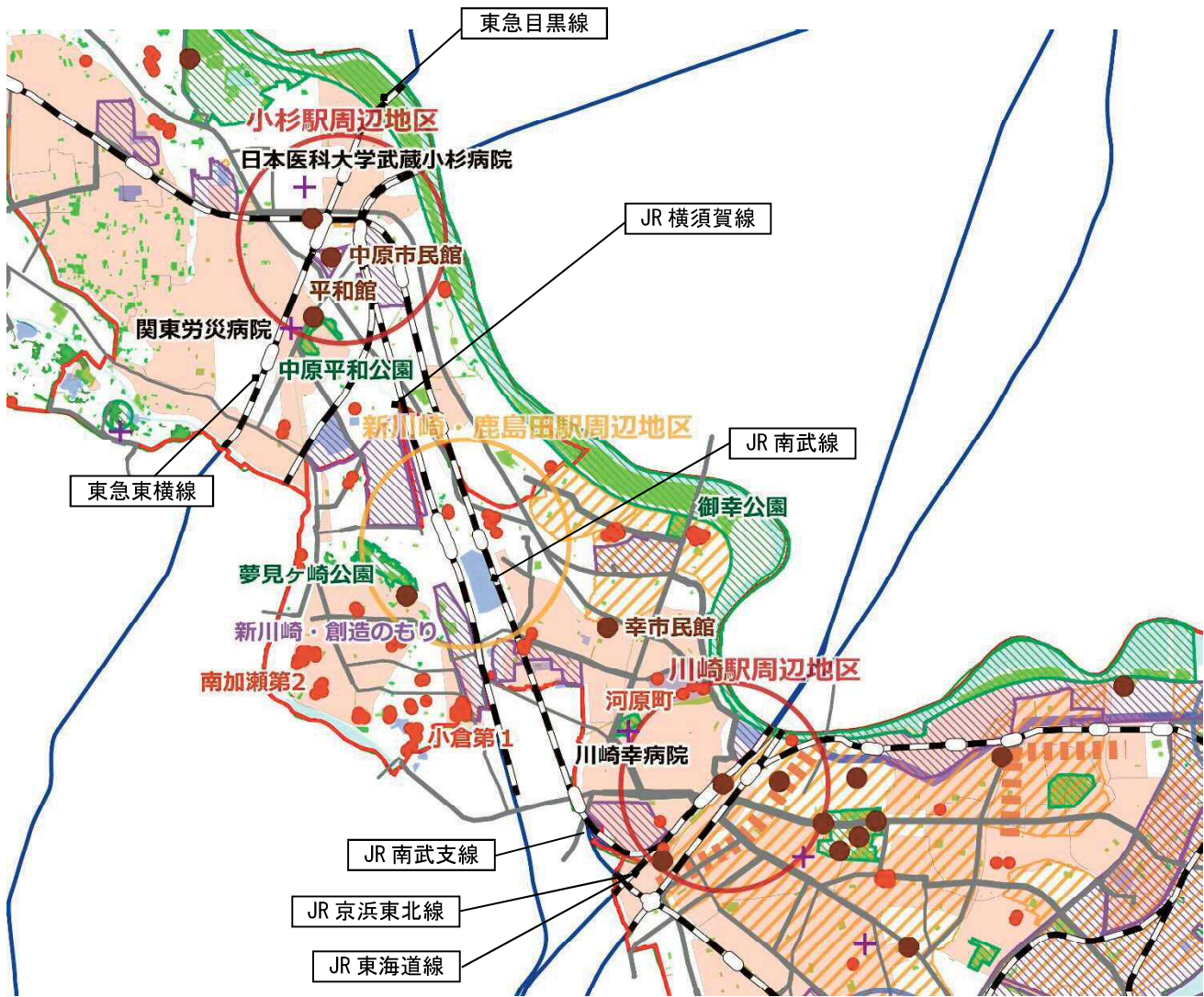
第5部

生活行動圏別の沿線まちづくりの考え方

第6部

計画の実現・推進方策

【川崎・小杉駅周辺エリアの地域特性】



凡例

- | | | | |
|--|------------------|---------|--|
| | 主要鉄道 | | 土地区画整理事業 |
| | 路線バス（100本以上/日） | | 耕地整理 |
| | 主な病院（一般病床300床以上） | | その他、宅地開発
※5ha以上の開発許可等。
一部工業跡地利用(2ha以上)含む |
| | 主な産業・研究開発 | | 市域・行政区 |
| | 主な公園・緑地 | H22土地利用 | |
| | 市営住宅 | | 農地 |
| | 文化施設等 | | 山林 |
| | | | 河川・水路・水面 |
| | | | 公園・広場・緑地等 |

第1部

改定の趣旨等

第2部

まちの現状・課題

第3部

都市づくりの基本理念

第4部

分野別の基本方針

第5部

生活行動圏別の沿線まちづくりの考え方

第6部

計画の実現・推進方策

4 川崎・小杉駅周辺エリアのまちづくりの考え方

(1) 広域拠点（川崎駅周辺地区、小杉駅周辺地区）

- ・川崎駅周辺地区は、都心から放射状に延びる主要な鉄道路線が複数乗り入れる本市の中心的なターミナル駅としての特性を活かすとともに、近隣都市拠点（品川・横浜等）の都市機能を意識しながら、中枢業務機能や広域的な商業、文化・交流、行政等の高次な都市機能の集積や良質な都市型住宅を誘導し、羽田空港と隣接する本市の玄関口にふさわしい市内外から人を呼びこむことができる活力と魅力にあふれた広域拠点の形成をめざします。
- ・小杉駅周辺地区は、都心から放射状に延びる主要な鉄道路線が複数乗り入れる本市の主要なターミナル駅としての特性を活かすとともに、近隣都市拠点（渋谷・横浜等）の都市機能を意識しながら、商業・業務、文化・交流、医療・福祉、教育、研究開発、子育て支援、防災・安全等の様々な都市機能のコンパクトな集積を図り、市内外から人を呼びこむことができる個性と魅力にあふれた広域拠点の形成をめざします。

(2) 地域生活拠点（新川崎・鹿島田駅周辺地区）

- ・本市における主要な鉄道駅としての特性を活かすとともに、J R南武線の連続立体交差事業を契機として、鉄道沿線の川崎駅周辺地区及び小杉駅周辺地区等と連携し、土地利用の機動的な誘導及び市街地開発事業等の推進により、多様な都市機能や研究開発機能、良質な都市型住宅等の集積を図り、地域生活ゾーンの核となる拠点の形成をめざします。

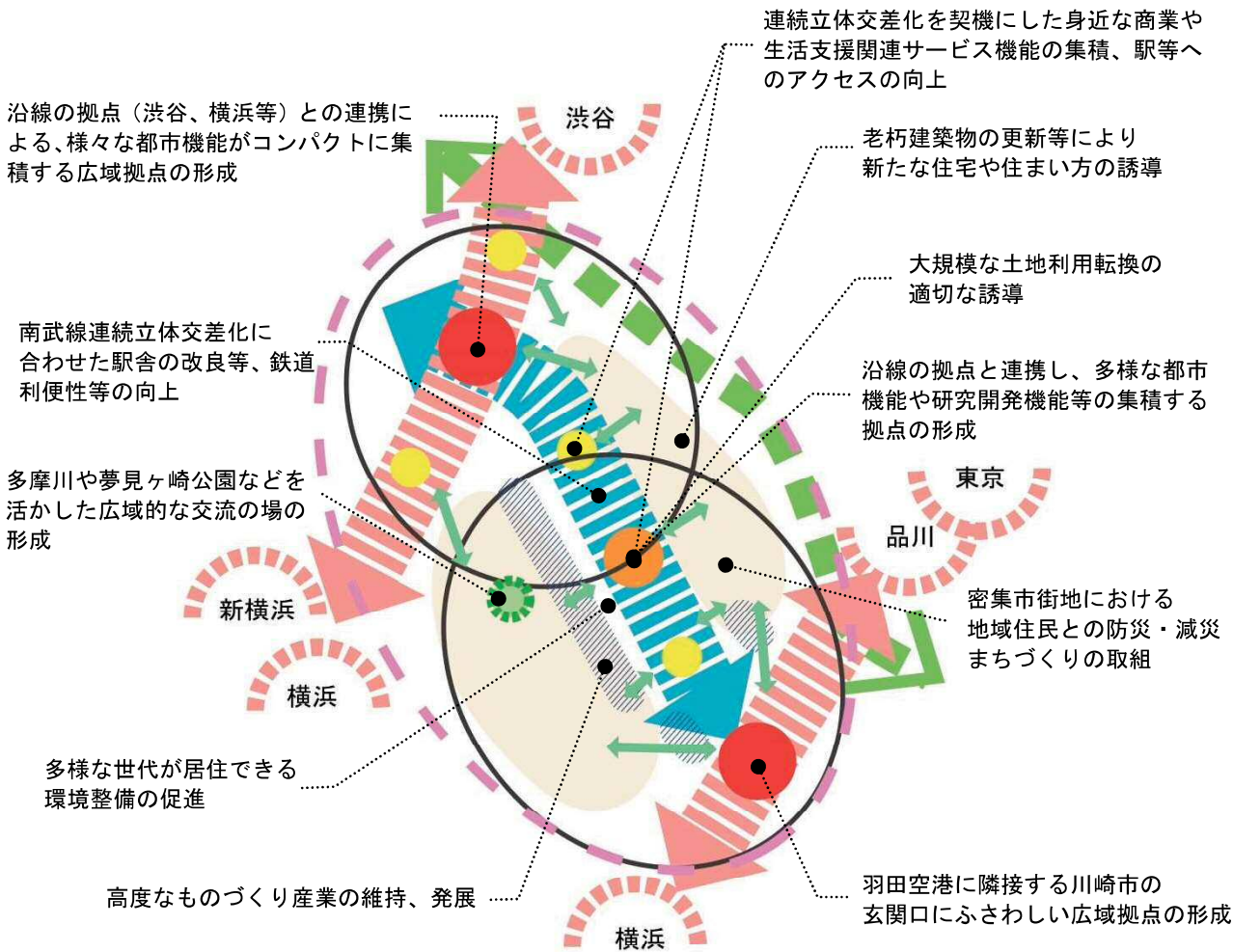
(3) 身近な駅周辺／鉄道沿線

- ・鉄道沿線の拠点地区と連携することで機能の分担を図り、J R南武線の連続立体交差事業を契機として、地域住民の暮らしを支える身近な商業や生活支援関連サービス機能の集積をめざします。
- ・J R南武線沿線の高度なものづくり産業が集積している地域特性を活かし、産業の維持、発展を支え、鉄道沿線の魅力の向上をめざします。
- ・建物の更新やリニューアル等により、新たな住宅や住まい方の誘導を図り、また、鉄道駅周辺における高い利便性を活かし、多様な世代が居住できる環境整備の促進をめざします。
- ・J R南武線の連続立体交差事業等による、高齢者等に配慮した歩行者の移動の円滑化を図り、駅や駅周辺へのアクセスの向上をめざします。
- ・J R南武線連続立体交差化に合わせた駅舎の改良など、鉄道の快適性や利便性の向上をめざします。

(4) エリア全般

- ・本エリアにおける地域特性や交通環境を考慮し、サービスの向上による公共交通の利用促進を図り、駅や駅周辺へのアクセスの向上をめざします。
- ・多摩川や夢見ヶ崎公園等の地域資源を活かし、アクセスの向上や魅力の発信を通じ、広域的な交流の場の形成をめざします。
- ・大規模な土地利用の更新等においては、地域特性を踏まえながら、地域課題の改善につながる土地利用転換を適切に誘導します。
- ・老朽建築物の更新等により、新たな住宅や住まい方の誘導を図ります。
- ・密集市街地における地域住民との防災・減災まちづくりの取組を進めます。

川崎・小杉駅周辺エリアのまちづくり概念イメージ図



凡例

広域拠点	都市軸（放射方向）	生活行動圏	主な公園・緑地
地域生活拠点	都市軸	地域生活ゾーン	主な産業・研究開発
身近な駅周辺	駅や駅周辺へのアクセスの向上	多摩川	平たん部居住地

第1部 改定の趣旨等

第2部 まちの現状・課題

第3部 都市づくりの基本理念

第4部 分野別の基本方針

第5部 生活行動圏別の沿線まちづくりの考え方

第6部 計画の実現・推進方針